

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

2020年2月5日

三田市議会議長 様

本会派（私）は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	盟政会	代表者	森本 政直
		議員名	印
派遣者氏名	白井和弥・三谷禎勇		
視察先及び 調査事項 (調査目的)	加古川中央市民病院 公立病院と民間病院の統合再編について		
日 時	2020年2月3日(月) 14:00 ~ 2020年2月3日(月) 16:00		
視察先対応者	経営管理部本部長 増田嘉文氏 財務部 部長 川邊佳奈氏		
(調査結果の概要及び所見) 別紙でも可			
※別紙			

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入の上、押印してください。

個人支給の場合、会派名（無会派は記入不要）、議員名を記入の上、押印してください。

調査日時	R2年2月3日(月) 14時00分～16時00分
視察先	兵庫県 加古川市 加古川中央市民病院
調査事項	公立病院と民間病院の統合再編について
(概要)	
<p>加古川中央市民病院について、病床数は、ICU26床、HCU8床、MFICU6床、NICU15床、GCU30床を含め600床となっています。診療科目は、現在32診療科です。そして核になる5つのセンターがあり、こどもセンター・周産母子センター・消化器センター・心臓血管センター・がん集学的治療センターを基幹の診療センターとして標榜をしています。構造規模ですが、地上11階建てということで一番上にはヘリポートを備えた構造になっており、6F以上が病棟になっています。駐車場としては480台分用意しており、施設認定として地域医療支援病院、地域周産期母子医療センター、県指定のがん診療連携拠点病院などの認定を受けています。また、研修実習指定という点については、基幹型臨床研修病院の指定と、単独型歯科臨床研修施設の指定を厚労省より受けております。また、周産母子センターに関しては「赤ちゃんにやさしい病院認定病院」ということで認定をとっています。東播磨医療圏域の構成市町は明石市・加古川市・高砂市・播磨町・稲美町の3市2町でこの圏域を構成しています。人口規模としては70万人強というような医療圏になっています。</p>	
<p>統合前の平成22年度までは、加古川市民病院として許可病床405床、16診療科あり、強みとして地域周産期母子医療センターという点があげられます。赤ちゃんに優しい病院の認定を受けており、また新生児の搬送ドクターカーの運行、小児救急24時間365日の対応といったところで、小児周産期に非常に強みのある総合病院ということで運営しています。もう一方、神鋼加古川病院は許可病床198床12診療科であり、心臓血管センターとして24時間365日の救急対応を行っており、消化器内視鏡センターや歯科口腔外科の24時間の救急というような対応で循環器に非常に強い病院ということで存在していました。そして経営統合ということで平成23年4月に地方独立行政法人を加古川市が設立して、その中でそれぞれ加古川西市民病院と加古川東市民病院という形で二つの病院を運営することになりました。そして、28年7月に加古川中央市民病院が開院しました。統合の背景として、旧加古川市民病院の事情は、内科医の減少があり、平成16年度には14名いました内科医が平成21年の7月には1名まで減っています。また、先を考えて大学との連携関連教育病院を作ってほしいという大学の医局から提示もありました。一方で旧神鋼加古川病院の事情としては、198床の循環器に強みのある急性期病院としての運用をされていましたが施設の老朽化も進んでおり建て替えの問題があり、加えて200床未満で地域医療支援病院にもなれていないという状況等に課題がありました。課題解決への方向性の一致ということで、大学医局にとっては同一地域内での中規模総合病院の統合再編ということで、規模の大きな総合病院が出来る事、加古川市にとっては救急、小児・周産期の機能が充実した急性期総合病院としての医療提供体制を維持出来る事、神戸製鋼所としては、地域貢献そして今後の将来性、規模の拡大と施設の老朽化への対応という事があげられます。これらの考え方がうまく一致し、さらに2つの病院の診療科が相互に補完できる関係であり、統合の合意ができています。</p>	
(所見)	
<p>公立病院と民間病院の統合という事例ではあるが、立地や実情において、三田市にそのまま適応できる内容とはいかない部分も多いと感じた。統合が決定した後の進め方や、困難に感じられるポイントなどはとても参考になるが、統合決定までのプロセスにおいては特に主だった障害がないという事であり、統合後も市民からは好意的に受け止められているという事であった。好意的に受け止められた要因としては、地域の救急や周産期などの医療をしっかりと守っており、成果を上げているという事が大きいと思われる。成果をあげられたのは、所謂大きく強い病院に生まれ変わった事が要因と思われる。三田市のこれからの医療を考える上でも、これらの要素を大いに参考にしていきたい。</p>	